



七本松



会長に就任して

会長 L 橋本圭祐

平成十六年度、第四十二代木之本ライオンズ会長就任にあたり、一言御挨拶申し上げます。
ライオンズクラブは、一九二七年アメリカシカゴで創設され、日本においては一九五二年東京で初めて誕生しました。当木之本ライオンズは一九六九年に認証され本年をもって四十周年を迎えることになりました。その間多くのメンバー諸兄の努力のもとに、多くの特色ある事業を展開され、発展を遂げました。

ライオンズ活動を取り巻く環境は、特にバブル崩壊以降、日本の産業構造の変革と共に、多くの問題が生じてまいりました。打ち続く不況の中で都市部のクラブではメンバーが半減するクラブが続出し、ライオンズクラブ本部では、大幅な会員の減少がもたらす組織運営の危機に対する対応に、苦慮されていると聞いております。私はそうした原因の一つには、高度成長の豊かな時代を体験した時代の事業と社会のニーズが少し時代に合わなくなつて来ているのではないかと、もう一度社会のためにはどうすれば有益な事業となりうるのか、真摯に考える時代に来ていると思えます。

ライオンズクラブは単なる社交クラブでもなく、また慈善団体でもない、会員が力を結集して行動を起こす社会奉仕団体であります。そうした原点に立ち返り、事業活動あるいは、運営、財務の問題について、身の丈に合った、スリムな体質に戻ることではないかと思えます。



一年を振り返って

幹事 L 平井英之

長くもあり、短くもあり、という一年でした。
ライオンズクラブ会則によれば、「幹事は、会長および理事長の指揮監督のもとに、クラブ、所属地区および複合地区、国際協会間の連絡に当たる。」と定められております。当クラブ内での連絡調整のみならず、地区ガバナー諮問委員会をはじめとした所属ゾーンでの他のクラブとのパイプ役を任せられました。私には、少々重い荷を背負ってではありましたが、やるしかない！の意気込みでの出陣でした。

第一回ガバナー諮問会議は、当木之本ライオンズクラブがホストクラブとして開催されました。ガバナー方針「行政と手を組んでA.C.T.」の伝達、女性会員の増強・滋賀に新クラブ結成要請等リンチエアマンから話がありました。毎回の諮問会議は、地区役員からの連絡事項・各クラブよりの現況報告がされ、所属ゾーン諮問委員の方々

幸に当木之本ライオンズにおいては、元々比較的質実で、会員数も大きな影響は受けておらず、先輩諸兄の努力のもとに、四十周年を迎えることが出来ました。私は先輩諸兄が築かれた基礎の上に立って、四十周年を契機として、更にメンバー全員で、全てのアクティビティを考え、地域社会で本場に求められているのは何か、その目で耳で足で押し出し、地域社会のニーズを的確に把握し、組織を再構築すべき時期に来ていると思えます。伊香郡スポーツ少年団交流大会のように、本年で十周年を迎え、当初郡内青少年の集いであった大会が、県下一円より選手が集まる大会に成長し、障害児二日バス旅行のように、子供達が年に一度のイベントとして期待されている事業もあり、私はこうした地域社会に根づいた事業に育つて来ている事業があるということ、先輩諸兄の着実な努力の賜物と痛感するものであります。私はそうした歴史と礎をもとに更に、真のアクティビティとは何か、質のよいアクティビティとは何か求め続けていきたいと思えます。

はからずも今年会長に就任し、舵とりを命ぜられました。木之本ライオンズの伝統を継承しながら、メンバー各位の御指導、御鞭撻を賜わりながら、努力してまいり所存であります。どうか格別の御理解と御協力を切に賜りますようお願い申し上げます。就任の御挨拶にかえさせて頂きます。

と情報交換ができる貴重な時間でした。事務局まかせとなつていた「マンスリー報告」に、幹事が目を通すように指摘を受けたのも、この会議でした。合同幹事会は通例年四回開催されますが、毎回会議で幹事間交流が活発にされ、年間五回実施されました。能登川ライオンズクラブと日野ライオンズクラブのチャーターナイト周年大会にも参加致しました。様々な場で、いろいろな方々と意見交換ができる機会を持つ事ができました。

当クラブ内では、会員招請についての内規の大幅改定等、会員の皆様の活性化への取り組みの助を担わせていただきました事を感謝致しております。
この一年を通して、ライオンズクラブの組織活動について理解を深めることができ、また、自己研鑽できましたことを今後の活動に活かしてまいりたいと思っております。

L前川喜代彦を偲び

L 竹中 一雄



古希を迎えられての手記のなかに詠まれたもので、七本槍八十三号に掲載されています。
くれない猛き顔も
水面の影に うつろいて
われ凋落の 影ふかし

古希を迎えられての手記のなかに詠まれたもので、七本槍八十三号に掲載されています。

L前川は、ご存じのとおり木之本ライオンズクラブ結成時十九名のお一人で医師として地域医療に携わりながら、初代第三副会長から第十二代クラブ会長の外、人権擁護委員や教育委員長などの公職も永年務められ、その功労・功績に対して平成十一年秋に勲五等瑞宝章を受章されました。平成九年七月から終身会員としてクラブに寄与されておられました。平成十五年十二月十日召されて亡き奥様のもとに赴かれました。

お元気なころはゴルフも一緒にしましたがレフティで堅実なゴルフでした。十九番ホールのカラオケでは美声とその声量に感嘆したこともありました。
L前川は我が家の主治医でもあり、私が交通事故で緊急入院したときは徹夜で付き添っていただいたご縁もあつて拙文を寄稿し、今は亡きL前川を偲びました。
チャーターナイト四十周年記念を目前にしてのご逝去に、改めて哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

本年度役員

(2004.7~2005.6)

Table with 4 columns: Position, Name, and other details for the 2004-2005 fiscal year officers.

新入会員の紹介

L 林 源栄君の紹介



L林源栄は、十七代目当主で今から四百年以上に遡ると言われ、想古亭は四代目を継いでおられます。

先代故源内氏は、県内の観光政策の推進に大変尽力され、多くの事業を残され、又伝来の鮎のみそむしの料理は多くの評判を生みましました。

四代目源栄氏もそれに続き、ヨーロッパ、アメリカ各地で修行を重ね、現在父の後を継ぎ賤ヶ岳の麓で想古亭を営み、長浜青年会議所でも活躍され、現在全国旅館組合青年部近畿ブロックの部長として活躍されています。趣味は仕事しかない一応は言っておられますのでクラブの皆様の誘いをよろしくお願い申し上げます。(L橋本圭祐 記)

L野村義人君の紹介



入会招請は、「まゆの会」の席での強力アプローチからでした。長浜青年会議所の伊香郡内会員とOBでつくる長浜J.C伊香郡の会、

「まゆの会」です。三月二十六日に、源内「で催された会の席上、当木之本ライオンズ会員のL中村さんが入会を勧めました。長浜J.Cでは、副理事長を経験し、事業等の企画運営力に優れ、ボランティア精神旺盛であるのは、周知の事実でした。これからの木之本ライオンズに必要な人材である事を、熱く語って口説いたのは、中村さんでした。野村さんは、高月町柏原で、愛妻と愛犬に囲まれた羨ましい生活をされています。仕事は、私と同じ建設業です。たいへん厳しい状況の業界ですが、地域に根付いた仕事とライオンズ活動を両立して、がんばっていただけたらと思います。(L平井英之 記)